

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 夢をかたちに (Scale up your Dream, and Build up your Future.)

\* 生徒が自らの進路に夢や希望を抱き、高い志を持ってその実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、地域社会に積極的に参画し貢献できる人材を育成する学校をめざします。

## 【生徒に育みたい力】 日根野高等学校 校訓「自立・共生・友愛」

- 1 高校三年間の様々な体験的学習を通し、発見・驚き・感動を自信に繋げ、将来の夢を見定め実現していく力。
- 2 地域社会の発展に寄与するための高い志を持ち、自らを律し社会人として自立する力。[自立]
- 3 異文化や異なる価値観を理解し、身の周りから世界に至るまでの様々な人々と共生できる力。[共生]
- 4 ボランティア活動等の実践を通し、基本的人権を尊重し社会に奉仕貢献できる力。[友愛]

## 2 中期的目標

## 1. 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む

## (1) わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。

- ア、習熟度別授業と演習科目を充実させ、基礎学力及び受験学力の向上に資する授業を展開するとともに、補習・講習の講座充実を図る。
- イ、泉佐野市や地元大学等と連携し、出前授業など外部人材を活用し、専門コースに合わせた体験的授業（看護医療・保育）を推進する。
- ウ、主体的・対話的で深い学びを育むため、ICT等を活用しコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を開発する授業を研究・推進する。
- エ、語学教育、歴史教育や政治的教養、読書活動など多様で体験的な学習機会を通じ、異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。

※自主学習時間の増加 (H29:92分 H30:2時間以上 2020:2時間以上)

※専門演習など体験的学習時間の確保 (H29:88時間 H30:80時間超 2020:80時間超)

※ICTを活用した教材や授業への生徒満足度 (H29:94.7% H30:95% 2020:95%)

※プレゼンテーション能力が十分に身についたとする生徒の肯定的回答率 (H29:57.6% H30:65% 2020:70%)

## (2) 特色ある専門コースを持つ普通科高校として、自己実現性の高い進学を志向する。

- ア、生徒のニーズに適合する、より選択的で専門的なカリキュラム編成を行う。
- イ、コースや科目選択時の生徒の満足度をあげるとともに、専門コースを選択する生徒の比率40%を目途にバランス良くガイダンスする。
- ウ、世界を相手に飛翔するグローバル人材、国際感覚を身に付けて地域社会に貢献するグローバル人材をバランス良く輩出する。
- エ、もっと入りたい学校へ。本校のアドミッションポリシーに合致した入試志願者を安定確保する。

※専門コース選択・科目選択に関する生徒満足度 (H29:83.2% H30:85% 2020:87%)

※ガイダンスに関する満足度 (H29:83.1% H30:85% 2020:87%)

※国公立大学・難関私立大学（関関同立・近・関西外大）進学者数 (H29:27名 H30:40名 2020:50名)

※児童保育系進学者数、看護医療系進学者数 (H29:児童保育系21名 看護医療系45名、H30:40名超 50名超、2020:50名超 50名超)

※選択した科目が進路実現に役立った (H29:65.9% H30:70% 2020:80%)

※入試志願者倍率 (H29:1.19倍 H30:1.2倍超 2020:1.2倍超)

## (3) 進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。

- ア、志学・キャリア教育・人権教育・進路指導を系統的に結合した「ひねのプログラム」を活用し、生徒の学習意欲の向上を図る。
- イ、分野別進路説明会や進路適正検査・面接試験指導に注力し、進路選択のミスマッチを回避、自己の進路実現を図る。
- ウ、社会保険労務士や司法書士、民間経営者などの外部講師を招聘し、社会人としての心得など、身近な問題に触れ意識付けを図る。

※進路選択やキャリア教育に関する満足度 (H29:86.5% H30:88% 2020:90%)

## 2. 社会道徳教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む

## (1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道徳教育を推進する。

- ア、「いじめ防止基本方針」に従い、全校でいじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。
- イ、基本的生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。

※命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった (H29:80.0% H30:85% 2020:85%)

※のべ遅刻者数/4-12月 (H29:3,388人 H30:2,800人 2020:2,000人)

## (2) 急速に普及するスマートホンに係るネットと人権侵害理解についての取組みを推進する。

- ア、スマホの急激な普及によって起こっているインターネット上の諸問題に対し、情報と社会の授業や各学年のHR等で学習し対応に取り組む。
- イ、保護者への啓蒙活動を研修等により継続するとともに、保護者と教職員とがさらに連携を深め、生徒一人ひとりを大切に人権教育の充実を図る。

※保護者向け教育相談に関する満足度 (H29:83.9% H30:85% 2020:85%)

## (3) 部活動や各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図る。

- ア、生徒会やボランティア部を中心にした生徒主体による地域での社会貢献活動の取組みを推進する。
- イ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信・発表の場を多く設けることで、生徒が社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解する。

※部活動加入率 (H29:75.7% H30:78% 2020:80%)

## (4) 学校運営協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取りいれるとともに、HPやメールマガジンで学校の取組みを情報発信する。

- ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動」に対する満足度について、さらなる向上をめざす。

※教育活動に関する満足度 (H29:77.4% H30:80% 2020:85%)

※教育情報についての提供努力満足度 (H29:83.3% H30:85% 2020:85%)

## 3. 生徒理解を促進し相談体制を充実させる

## (1) 全教職員が、障がいのある生徒への理解を深めつつ自立を支援する合理的配慮やケアを行い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。

- ア、「生徒支援カード」をもとに、支援を要する生徒について個別の支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容の検討を行う。

## (2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と水平連携を行う。

- ア、体罰やハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談についても相談体制を構築し、生徒に周知徹底する。

※生徒向け教育相談に関する満足度 (H29:68.7% H30:70% 2020:75%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【中期目標 1 と実績】</b> ( )内は H30 実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 活用授業への生徒満足度 95%(97.0%) . . . . . 対前年 2.3%増(○)</li> <li>プレゼンテーション能力向上に関する生徒満足度 65%(73.9%) . . . . . 対前年 16.3%増(◎)</li> <li>専門コースや科目選択への生徒満足度 85%(87.8%) . . . . . 対前年 4.6%増(○)</li> <li>ガイダンスに関する生徒満足度 85%(90.0%) . . . . . 対前年 6.9%増(○)</li> <li>選択した科目が進路実現に役立った 70%(77.3%) . . . . . 対前年 11.4%増(◎)</li> <li>進路選択やキャリア教育に関する生徒満足度 88%(92.5%) . . . . . 対前年 6.0%増(○)</li> </ul> <p><b>【中期目標 2 と実績】</b> ( )内は H30 実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命の大切さや社会のルールを学ぶ機会に関する生徒満足度 85%(80.7%) . . 対前年 0.7%増(○)</li> <li>教育相談に関する保護者満足度 85%(82.9%) . . . . . 対前年 1.0%減(△)</li> <li>教育活動に関する保護者満足度 80%(82.0%) . . . . . 対前年 4.6%増(○)</li> <li>情報提供に関する保護者満足度 85%(87.4%) . . . . . 対前年 4.1%増(○)</li> </ul> <p><b>【中期目標 3 と実績】</b> ( )内は H30 実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談に関する生徒満足度 70%(74.8%) . . . . . 対前年 6.1%増(○)</li> </ul> <p>*ほとんどの満足度が向上し目標数値を達成した。「教育相談に関する保護者満足度」のみが、前年数値をやや下回ったが、82.9%と水準は安定しており、また「教育相談に関する生徒満足度」は向上しているため、誤差の範囲内とも考えられる。</p>	<p><b>【第 1 回 5/25(金)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの日根野高出身の保育士が地元こども園で頑張っている。このような繋がりを大切にしてほしい。</li> <li>看護系進学にあたって、看護大学と看護専門学校の違いをもっと生徒に説明してほしい。</li> <li>日根野高の活発な地域貢献活動は理解したが、今後はボランティア活動など「他人の役に立つ喜び」を理解する活動を更に推進してほしい。生徒の進路実現にも有効なキャリアとなる。</li> <li>体育祭や文化祭を地域に向け公開することはできないか。あるいはオープンスクールを地域にも公開する機会にできないか。</li> </ul> <p><b>【第 2 回 9/28(金)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「平成 30 年度学校経営計画」の中にある基本的な生活習慣の確立という文言について、幼稚園や小学校でもよく使用するが、高校生であれば社会人へと繋げてゆけるような表現に変えた方がよいのではないかと。</li> <li>見学や体験を抜きに進路決定せず、自分の進路は自分の目で見て決めるという姿勢を大切にほしい。</li> <li>部活動の在り方が議論されているが、生徒の希望を削ぐことがないよう進めてほしい。</li> </ul> <p><b>【第 3 回 1/25(金)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断の結果、様々な分野での生徒満足度の向上が見取れるが、その満足が具体的にどのような事実となって表れているかの指標を定めて置く必要はないか。また、他学年に比べ 3 年生保護者アンケートの回収率(36%)が低いようだが改善する方法はないか。</li> <li>性的マイノリティに係る生徒達への具体的な配慮を更に進めていただきたい。</li> <li>スマホ利用に係る教育を更に進め、何故その投稿をする必要があるのか。投稿することによってどのような影響が出るのか、といったことを考えさせる教育をしてほしい。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 将来の夢を自ら見定め、自立・実現していく力を育む</p>	<p>(1)わかる授業、進路実現を見据えた授業をめざし、授業改善に取り組む。</p> <p>(2) 特色ある専門コースを持つ普通科高校として、自己実現性の高い進学を志向する。</p> <p>(3)進路に夢や希望を抱き、社会の一員として自立し、その発展に寄与するという高い志を身につける。</p>	<p>(1)ア、英・数・国の3教科において習熟度別授業を設定し、また補習・講習講座を充実させていくことで、苦手科目の克服、得意科目の伸長を図る。自習・講習・模試検定の「場」を拡大し、ひねのプログラム運用により生徒の自主学習の状況確認を継続する。</p> <p>イ、実践的な専門演習を継続し、地域連携強化のもと、外部人材のプロ精神と技術を体験的に学習する。</p> <p>ウ、ICT 教材や設備を活用し、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の開発授業を研究・推進する。反転学習やペアワーク等の導入を推進し、生徒の発話機会を拡大させ、コミュニケーション能力の向上に繋ぐ。</p> <p>エ、語学、歴史教育や政治的教養、読書活動など多様で体験的な学習機会を通じ異文化や異なる価値観への理解を深め、幅広く自らの進路選択に繋げる。</p> <p>(2)ア、選択性と専門性を兼ね備え、生徒のニーズに適合したより選択的なカリキュラム編成を行うとともに、それを的確にガイダンスし運用する管理者を設ける。</p> <p>イ、コース選択時の生徒満足度を上げるとともに、特色ある専門コース選択をする生徒へのガイダンスをバランス良く行う。</p> <p>ウ、世界を相手に飛翔するグローバル人材、国際感覚を身に付けて地域社会に貢献するグローバル人材をバランス良く輩出する。</p> <p>エ、もっと入りたい学校への魅力づくり。アドミッションポリシーに合致する入試志願者を安定確保する。</p> <p>(3)ア、「ひねのプログラム」を活用し生徒の学習意欲の向上を図るとともに、志学とキャリア教育教材の質を高め共通化することで教員の働き方改革に取り組む。</p> <p>イ、分野別進路説明会や進路適正検査・面接試験指導に注力し進路選択のミスマッチを回避する。</p> <p>ウ、社会保険労務士講座、司法書士講座等、外部人材を活用し、進路実現に繋げる。</p>	<p>(1)ア、自主学習時間 2 時間を達成する。(H29: 92 分)</p> <p>イ、体験的学習延べ 80 時間超/全校を堅持する。(H29:88 時間)</p> <p>ウ、「ICT 活用授業を行った教員への満足度」95%(H29 94.7%)。生徒の「プレゼンテーション能力向上満足度」65%。(H29 57.6%) ビブリオバトル強豪校となり大阪大会優勝奪還をめざす。</p> <p>エ、海外の教育連携校や地元の国際交流機関との連携を継続・強化する。</p> <p>(2)ア、「コース・科目選択に関する満足度」85%。(H29 83.2%)「ガイダンスに関する満足度」85%(H29 83.1%)</p> <p>イ、専門コース選択比率目標 40% アドバンスト人文社会 15%(H29 15%) 子どもみらい 10%(H29 9%) 看護マイカル 15%(H29 16%)</p> <p>ウ、国公立大学・難関私立大学(関関同立+近+関西外)の進学者数 40 名。児童保育系進学者数 40 名超。看護医療系進学者数 50 名超。 センター受験者数 20 名(H29 14 名)</p> <p>選択した科目が進路実現に役立った 70%(H29 65.9%)</p> <p>エ、入試志願倍率 1.2 倍超(H29 1.19 倍)</p> <p>(3)ア、「進路選択やキャリア教育に関する満足度」88%(H29 86.5%) 「学校ストレスチェックの総合リスク値の低下・改善」100(H29 102)</p> <p>イ、「キャリアガイダンスセンター入室者数拡大」1800 名/4-12 月 (H29 1690 名)</p> <p>ウ、キャリアサポート団体等との連携活動</p>	<p>(1)ア、自主学習時間 83 分。ひねのプログラムの運用は順調に推移しているが、大きく伸びた前年度に比べると学習時間への跳ね返りが鈍い。(△)</p> <p>イ、116 時間(◎) 年間 80 時間超がほぼ定着。</p> <p>ウ、ICT 活用授業がほぼ定着 97%。プレゼンテーション満足度 73.9%。大きく目標を上回った。(◎)</p> <p>予選敗退だが、ビブリオバトルは国語科平常授業に組込まれ、本校の名物授業となっている。(△)</p> <p>エ、オーストラリアからの語学留学生 7 名を 1 週間受入れ全校生徒が国際交流活動を展開できた。(○)</p> <p>ア、コース・科目選択 87.8%。ガイダンス 90.0%。ひねのプログラムの成果もあり目標達成 (○)</p> <p>イ、専門コース選択者が 37.9% (アドバンス 12.5% 看護 19.5%、こども 6.0%) 専門コース全体としてほぼ計画通り。(△)</p> <p>ウ、国公立難関私大 20 名(△) センター試験受験 44 名(◎) 看護医療系 58 名(○) 保育系 22 名(△) 看護系が順調である。国公立難関と保育系は伸び悩み。ひねのプログラムにより進路意識が向上しつつある傾向。 選択した科目が進路実現に役立った 77.3% (◎)</p> <p>エ、1.21 倍 (○)</p> <p>(3)ア、92.5% (○) 仕事の裁量性向上・上司同僚サポート体制の向上により学校の総合リスク値 92 に大きく改善。(◎)</p> <p>イ、入室者数 1,488 名 (△)</p> <p>ウ、外部講師(看護師、保育士、社労士、司法書士、税理士)等向え、生徒のキャリア形成へと繋いだ。(○)</p>

<p>2 社会道徳教育・人権教育を基盤に、地域社会と連携しまた貢献する志と力を育む</p>	<p>(1) 「いじめ防止基本方針」の実施と道徳教育を推進する。</p> <p>(2) 急速に普及するスマートフォンに係るネットと人権侵害理解についての取組みを推進する。</p> <p>(3) 部活動や各種の地域ボランティア活動への参加を通じ、生徒の社会的貢献を図る。</p> <p>(4) 学校運営協議会や学校保健委員会の提言を教育活動に取り入れるとともに、HP やメールマガジンで学校の取組みを情報発信する。</p>	<p>(1)ア、「いじめ防止基本方針」に従い「いじめ防止対策委員会」を立ち上げ、年間計画に沿って実施する。</p> <p>イ、基本的な生活習慣の確立、挨拶励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成。</p> <p>(2)ア、インターネット上の諸問題(ツイッター、ライン等)の事例を多く取り上げ、現実性をもたせながら指導する。情報と社会授業や各学年 HR 等で、その問題に対する取組みを継続する。</p> <p>イ、保護者への啓蒙活動も含め、家庭・学校間の連携を深めた人権教育を展開する。</p> <p>(3)ア、生徒会やボランティア部を中心とした生徒主体による地域での社会貢献活動の取組みを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OSAKA あいさつ運動の実践</li> <li>・RUN 伴プロジェクト参加</li> </ul> <p>イ、学校周辺の商業施設や学校と連携し、部活動の発信発表の場を多く設けることで、社会貢献の意義や尊さを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹奏学部 (小中大での訪問演奏・合同演奏、商業施設でのタイアップ演奏等)</li> <li>・美術部 (商業施設や文化施設での展示発表)</li> <li>・茶道部 (商業施設での国際交流連携)</li> <li>・女子バレー部 (地域 33 中学校を対象とする日根野杯開催によるバレー・体育振興)</li> </ul> <p>(4)ア、保護者向け学校教育自己診断において、教育活動に対する満足度を更に向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報の一斉メール配信システムの有効利用。</li> <li>・学校自己診断や授業アンケートの分析方法の再検討。</li> </ul>	<p>(1)ア、生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があったに関する満足度」85%。(H29 80.0%)</p> <p>イ、延べ遅刻者数 2,800 人/4-12 月(H29:3,388 人)</p> <p>(2)ア、様々なマイノリティへの理解を深める教育をし、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」とする満足度を 85%。(H29 80.0%)</p> <p>イ、保護者向け「教育相談に関する満足度」85%(H29 83.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け人権学習会の開催 1 回。(H29 1 回)</li> </ul> <p>(3)部活動加入率 78%(H29 75.7%)</p> <p>(4)ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動に関する満足度」80%(H29 77.4%)</p> <p>「教育情報についての提供努力満足度」85%(H29 83.3%)</p>	<p>(1)ア、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があったに関する満足度」80.7%。(H29 80.0%)</p> <p>丁寧な人権学習の成果として評価する。(△)</p> <p>イ、延べ遅刻者数 3,584 人/4-12 月(H29:3,388 人)</p> <p>かつての 5,000 人台からは減っているが、昨年よりは増加した。(△)</p> <p>(2)ア、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があったに関する満足度」80.7%(H29 80.0%)特に LGBT に関する学習に重点を置いた。(△)</p> <p>イ、保護者向け「教育相談に関する満足度」82.9%(H29 83.9%) 目標未達だが一定の水準は保つ。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け人権学習会の開催 1 回。(H29 1 回)(○)</li> </ul> <p>(3)ア、部活動加入率 74.2%(H29 75.7%) (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より微減したが、安定した加入率維持。</li> </ul> <p>イ、吹奏学部(小中大での訪問演奏・合同演奏多数、イオンモールでのタイアップ演奏等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術部(地元「煉瓦館」での展示発表)</li> <li>・茶道部(地元ホテルでの国際交流連携)</li> <li>・女子バレー部(地元約 40 中学校を対象とする日根野杯開催によるバレーボール振興)(○)</li> </ul> <p>(4)ア、保護者向け学校教育自己診断における「教育活動に関する満足度」82.0%(H29 77.4%) (○)</p> <p>「教育情報についての提供努力満足度」87.4%(H29 83.3%) 特にメール配信による連絡体制が定着し、評価されている。(○)</p>
<p>3 生徒理解を促進し相談体制を充実させる</p>	<p>(1) 全教職員が、障がいのある生徒への理解を深めつつ、自立を支援する合理的配慮やケアを行い、スクールカウンセラーとの効果的な連携を図る。</p> <p>(2) 生徒がより相談しやすくするため、生徒の相談窓口の複数化と水平連携を行う。</p>	<p>(1)ア、生徒支援カードをもとに、支援を要する生徒について支援計画を作成し、情報収集と個別の支援内容を検討する。</p> <p>(2)ア、体罰・ハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談体制を構築し、生徒に周知徹底する。</p>	<p>(1) (2) 生徒向け学校教育自己診断における「教育相談に関する満足度」70%(H29 68.7%)</p>	<p>(1) (2) 「教育相談に関する満足度」74.8%(H29 68.7%)</p> <p>校内の情報共有機会を増やし、全教職員のカウンセリングマインドの向上に努めた。(○)</p>